**平成29 年度用 高等学校**

**教科書調査研究の観点**

**家庭科**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 発行者番号・略号 | 教科書名 | 記号・番号 |
| 9  開隆堂 | **家庭基礎** 明日の生活を築く | 家基　317 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 内容 | 学習指導要領との対応 | ◎ 学習指導要領の主旨を踏まえ，基礎･基本の知識や技術について，総合的･体験的･科学的に習得がしやすいように配慮されている。  ◎ 「人の一生と家族・家庭及び福祉」に関する内容は，「人生を見通し，共に生きる」(p.6～69)として，各ライフステージの特徴と課題を時間軸に沿って理解できるようにしている。  ◎ 青年期は自立の視点を明確にしている。  ◎ 乳幼児とのふれ合い交流や高齢者へのインタビューなどの体験学習や，生徒に身近な事例やどの世代にもかかわる課題を取り上げ，興味･関心をもって課題解決学習，アクティブ・ラーニングに主体的に取り組める場面や導入を工夫している。  ◎ 「生活の自立及び消費と環境」の内容は，「生活を営み，自立する」(p.70～171)として，自立した衣食住の生活を目指す視点からとらえている。  ◎ 実習例は，生徒が取り組んでみたいと思うもの，家庭でも応用・発展もしやすいものを取り上げており，実習する視点が明確である。  ◎ 生活と環境とのかかわりも具体的に記述してあり，高校生が身近に実践できる(p.76・77他多数)。  ◎ 消費行動・環境，ライフスタイルを考える視点で，ケーススタディ(p.88,121他多数)を随所に取り入れ，高校生の日常と関連しながら学ぶことができる。  ◎ 「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」(p.184～189)は，実際に高校生が行った例を学習内容とリンクさせ，多彩な案を例示することで，生徒が実践しやすくなっている。 |
| 生徒の学習状況，  社会状況との対応 | ◎ 小・中学校の家庭科教科書も発行しているため，それぞれの学習状況を踏まえた題材や内容が適切に取り上げられており，小･中･高校の系統性がはかられている。  ◎ 少子･高齢社会，男女共同参画社会，国際化，情報化など社会の変化を取り上げ，学習指導要領で強調されている青年期の自立や職業選択，男女の平等と相互の協力などにつながるように，実在の人のメッセージを取り上げるなどの配慮をしている。地域・社会の暮らしに参加し，広げる目を培えるように，記述を工夫している。  ◎　国際比較のデータ(p.57,86他多数)や和食(p.195,196,ⅵ)，多国籍料理(p.193・194)から他国の特徴や現状を理解し，日本との比較などができ，国際的な視点を養えるように構成されている。日本の伝統や文化も随所に取り上げ，日本から国際人として「日本」を発信できるよう工夫している。  ◎ 「命と暮らしを守る」という教科の特質により，全章を通して，安全面・防災面を具体的に記述を厚くしている。  ◎ 東日本大震災に対しての課題と対応についても高校生の視点で考えられるようにしている。世代，文化をこえた人と人とのつながりを重視している。  ◎ 高校生の進路のヒントになるよう，各章では「キャリア」(p.15,129,147他)を，教科書最終ページでは「未来のキャリアを見つめる」(p.180・181)を掲載し，その中でさまざまな生き方や働き方を紹介している。  ◎ 学習のまとめにあたる「生涯の生活設計」(p.172～179)では，教科書の他の学習と関連しながらキャリアを考えることができる。  ◎ 高校生に関わる「18歳選挙権」(p.10)や，再婚禁止期間の見直し（p.22），マイナンバー制度（p.61）など最新の話題を掲載し，新聞記事を用いた授業などでも，社会状況に臨場感をもって授業ができる。 |
| 分量・構成 | ストーリー性の  ある構成 | ◎ 全体を学習指導要領の順序に合わせ，２部構成とし，内容ごとに章に分けて配列してあり，「生涯の生活設計」をまとめとすることで，自立・共生・持続可能な社会に向かってストーリー性のある展開が可能である。  ◎ 冒頭の頁は，小学校，中学校とこれまで学んできた学習内容を概観させるとともに，これから学ぶ内容をイメージしやすいように掲載し，高校生の興味関心を高めるように工夫している。高校生の自立に向かうことを促す，家庭科からのメッセージとして位置付けている。 |
| 指導しやすい，  適切な分量 | ◎ 項目ごとに見開き（あるいは1 頁）単位として，「導入課題」「本文」「小課題」の順に構成され，章の終わりに「ふり返り」が設けられており，高校生が理解・定着しやすいだけでなく，授業や定期考査で使いやすいようにまとめている。  ◎ 調理実習も1 題材・１見開きとなっている。完成図は全頁大の写真を使って掲載し，また調理段階も全て写真を用いて，実習全体の流れのイメージをつかみやすいものである。  ◎ 小学校中学校の技能を活用して，環境に配慮した製作例も取り上げている（箸入れ，携帯用ソーイングケース）。  ◎ それぞれの学習項目の特性や必要に応じて，図や写真，資料，コラムなどを取り上げていて，２単位の学習が円滑に行えるように，分量や配分のバランスがよい。 |
| 印刷・製本・体裁 | ◎ 家庭基礎の学習内容を示唆する内容を表紙で表現している。色彩もカラフルで美しく，生徒の関心・意欲を喚起するとともに，卒業後の活用も期待できる。  ◎ 製本は堅牢で，長期の使用に耐えるものとなっている。 |
| 表現・表記・指導に対する工夫・留意点 | 生徒の学習意欲を高める表現 | ◎ 高校生に親しみやすいイラストや鮮明な写真を掲載し，高校生のキャラクターが進行していることや，擬人化されたキャラクターの「つぶやき」など，高校生の学習意欲を高められるように工夫している。  ◎ タイトルはほぼ，高校生への投げかけや疑問形の形をとっており，生徒が主体的に学習に取り組めるよう配慮している。  ◎各頁の下部には「マメ知識」に知っておきたいと思う情報を，また学習を更に深めることができるように「参考」(p.21,83,125,146,154,166他多数)を，さらに科学的な視点を養うために「サイエンスアイ」(p.50,81,86,127,164他多数)を，社会的視点を養うことができるよう「column」(p.38,60,76,143,153他多数)が，各所に配置されている。 |
| 生徒の問題解決  能力を育む課題 | ◎ 高校生にとって身近な問題を提起する導入課題である「考えてみよう」が学習のはじめに配置されている。  ◎ 「やってみよう」「考えてみよう」「調べてみよう」「話し合ってみよう」などの問題解決学習の箇所がマークで示され，生徒の思考力・判断力・問題解決能力・コミュニケーション能力を育てる課題が随所に掲載されており，アクティブ・ラーニングにも対応している(p.8,28,66,121,138,148,179他多数)。またこれらは，学習した知識や技術を実践につなぐことができるような課題である。  ◎ 「セクシュアル・マイノリティ」(p.12)など，現実の課題が取り上げられていることで，少数的立場の人も差別することなく，また高校生が人生の選択肢をあらかじめ狭めてしまうことなく，各々に自分らしさを発揮できるように，考えられている。  ◎ 乳幼児を身近にイメージしやすいようにイラストや写真が多用されているため，高校生にもイメージしやすいものになっている。(p.32～35,42・43)  ◎ いす取りゲームから格差社会を考えさせる課題(p.58)，家族や高齢者を扱ったメディア（映画や本）を取り上げる(p.20,49)，など多様な学習方法と課題を取り入れている。  ◎ 実際の給与明細(p.148)，求人票(p.177)や，「東日本大震災での仮設住宅＝まちづくり」(p.143)や多様な家族関係(p.18,21,24,135)などの事例を掲載し，また課題解決の手立てとして限定した記述ではなく，両論併記をするなど，生徒の意見や考えを引き出すことができるよう工夫している。  ◎ 高校生に関わる「18歳選挙権」(p.10)など最新の課題にもふれられ，より身近なものになるよう工夫されている。  ◎ 年表やグラフが多く掲載されていること，投げかけの形で「導入課題」があることは，高校生が現状や歴史などの背景を考えることができるだけでなく，読み取った情報を基に課題を見つけ，解決する力をつけることができる。 |
| 表記・表現 | ◎ 見やすいレイアウトに優しい配色で，且つ白く裏写りしない紙が使用されている。  ◎ 本文には読みやすい明朝体を使用している。また，重要な語句は緑色の太字で表し，漢字全てにルビがふられているため，高校生が一目みて大切な語句だと理解することができる。  ◎ AB判で紙面が大きいため，イラストや写真，図表が視覚的に理解しやすく，また種類も豊富に取り入れている。 |

|  |  |
| --- | --- |
| 総合所見 | ■１見開き単位で学習項目がまとめられており，見通しをもって学習に臨むことができる。  ■全体として，内容の範囲・程度・選択・扱いは適切で，組織・分量や内容の取扱い，表記・表現などで，細かな工夫がみられる。  ■各題材は，随所にアクティブ・ラーニングが可能となる課題が配置されており，問題解決的な学習が無理なく展開できる。これらの課題によって，主体的に学ぶ力，創意工夫する力を養うことができる。  ■学習を広げるための資料（食育や安全・防災教育，環境・消費者教育，及び言語活動，科学的視点，地域性や伝統文化，人権尊重・男女平等・ノーマライゼーション・高齢社会への対応，国際理解など）が充実しており，実践的で極めて適切である。  ■小学校・中学校からの系統性を意識しながら，家庭生活や社会生活で応用・実践していく基礎的・基本的な知識と技能が習得できるように配慮されており，また「生涯の生活設計」をまとめとしている全体構成は，自立に向けた最終段階として，極めて適切であり効果的である。  ■大判のサイズを最大限生かしたデザイン・レイアウト，印刷・造本などにも細かな配慮がされていて，大変効果的である。 |